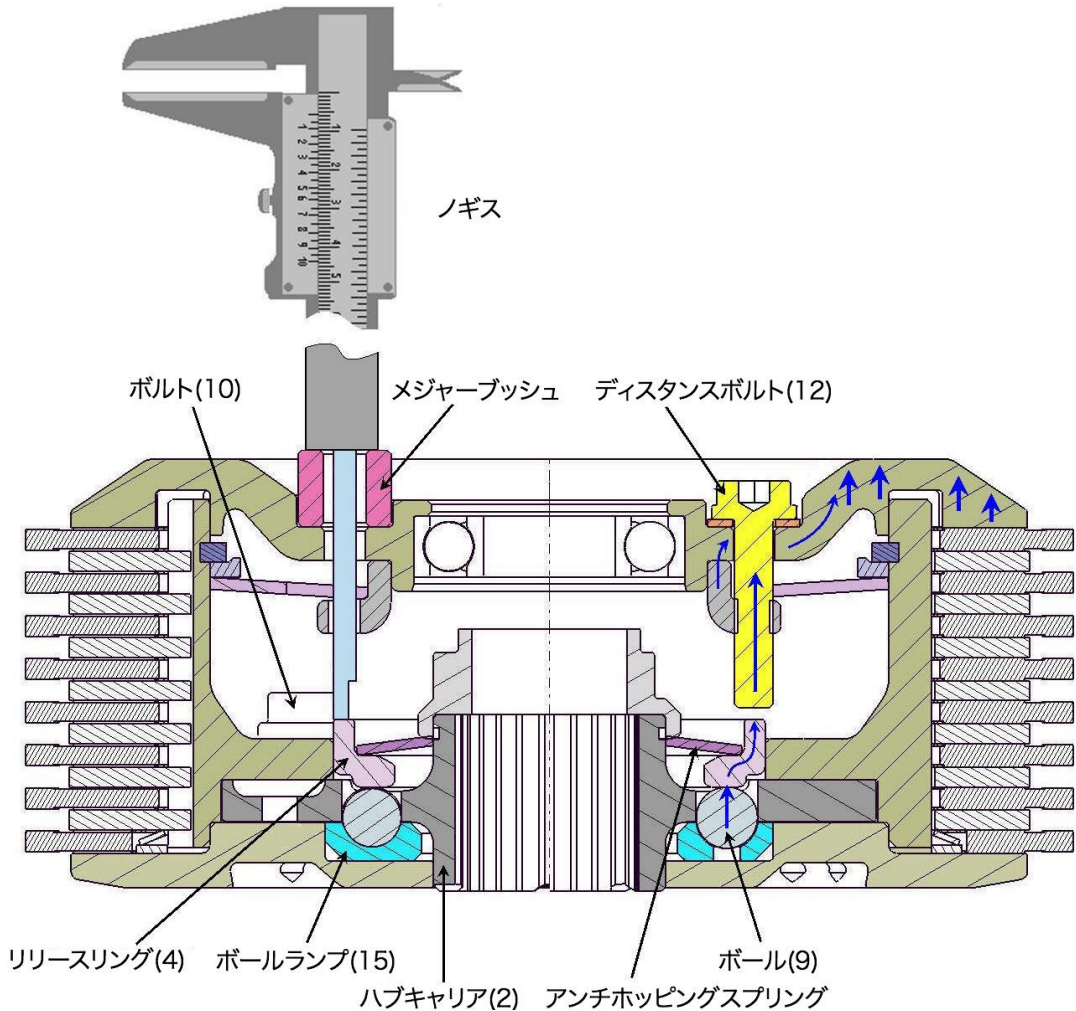


Written by:	T.Kuhn	Date:	30-03-2011
Approved by:		Report No.	004-99000-01_JP.DOC
Object:	<b>Gap Measuring</b>		

**1. システム解説**



エンジンプレーキトルクが掛かると、ハブキャリア(2)を回転させる力が発生します。この力が発生することで傾斜路(ランプインサート(15))に設置されたボールが動きリリースリング(4)を押し上げます。

トルクリミッターズプリングはリリースリングを押し上げる力に対して作用します。このスプリングがバックトルクの解放ポイントを設定しています。

リリースリングが設定された隙間を超え、ディスタンスボルト(12)に直接押し付けられるとプレッシャープレートも一緒に浮き上がり半クラッチ状態を作り出します。

クラッチの挙動は3つのパラメータによって変更可能です。

- ディスタンスボルトとリリースリングの隙間
- トルクリミッターズプリングの強さ
- 傾斜角度(ランプインサート)

このギャップはクラッチプレートパッケージの厚さと、ディスタンスボルト(10)に使用するディスタンスワッシャーの厚みによって設定されます。

Written by: T.Kuhn

Date: 30-03-2011

Approved by:

Report No.

004-99000-01\_JP.DOC

Object: **Gap Measuring**

## 2. ギャップの測定

前項で説明したように、ディスタンスボルトとリリースリングのギャップ(隙間)はこのクラッチを機能させるために非常に重要です。リリースリングの浮き上がる力には限界があるので、あまりギャップを大きくしてはいけません。過剰なギャップはアンチホッピングシステムを機能させなくします!

クラッチキットは新品の状態では理想のギャップになるよう設定し、出荷されています。しかし車両によりクラッチプレートの磨耗状況が異なる他、部品の製造誤差によっても指定したギャップ値でない場合があります。

したがって、以下の方法でギャップを測定、計算し効果的なギャップに設定することをお勧めします:

1. 別紙クラッチマニュアルの 23 ページの通りにボルトを締め、1 本抜いてください。
2. 本紙 1 ページの図を参考にメジャーブッシュとノギスを使用して、ボルトの接触面からリリースリング(4)までの距離を測定します。



効果的なギャップは以下のように計算します:

**測定距離 - ブッシュの厚み - ボルトの長さ**

例:

$35.5\text{mm} - 10.00\text{mm} - 24.5\text{mm} = \underline{1.0\text{mm effective GAP}}$

(測定距離) - (ブッシュの厚み) - (ボルトの長さ)

Written by: T.Kuhn

Date: 30-03-2011

Approved by:

Report No. 004-99000-01\_JP.DOC

Object: **Gap Measuring**

理想的なギャップはランプの角度によって異なります。  
キットに同封されているパーツリストのボールランプ、またはバックプレートに使用している  
角度が記載されています。

ランプの角度	最大リフト量	推奨ギャップ
30°	1.45mm	0.8-1.0mm
32.5°	1.60mm	1.0-1.2mm
35°	1.79mm	1.2-1.4mm
37.5°	1.95mm	1.3-1.5mm
40°	2.10mm	1.5-1.7mm